



川崎市議会議員
いわくま ちひろ

- 昭和50年生まれ 37歳
- 英国国立ウェールズ大学卒業
ロンドン大学大学院研究生
専門は国際政治学
- 国際派議員として、子どもから大人まで英語学とキャリア教育を教える。毎週日曜日は、イトーヨーカドー溝口店前で市政報告を継続中！(6年2カ月)

川崎市議会議員 いわくま ちひろ 目の前の50円か？ 水道耐震管の整備充実か？

民主党市議員
連載No.46

「水道料金」についてです。みなさんは、過去2年間、水道料金が軽減されていたことを存じなかったでしょうか？市長の公約で行財政改革における還元分として1世帯月額50円の軽減措置が続けられてきました。今回、12月議会において、市行政は引き続き50円の軽減を提案してきましたが、私たち民主党会派(みんなの党・無所属会派も同調)は、「東日本大震災を経験した現在、市民の

防災に対する考え方は大きく変化してきた。市民のニーズはライフラインの確保や更なる水道管の耐震管の整備促進にある」として、行政の提案を否決しました。(結果は自・公・共の賛成多数により採択) 水は、生命の維持をつかさどる原点です。川崎市の管路の耐震化率は、平成23年度時点で約22%に留まっています。また、予測不能な首都圏直下型

地震に対し1%でも耐震化率を向上させることが喫緊の課題です。

我が会派の調査によると、震災で被災した仙台市では、震災直前の管路耐震化率は約26%、被災後は復旧まで1ヶ月あまりを費やしています。管路耐震化率の向上は、震災時における管路復旧期間を1日でも早め、市民の生命、安全の確保に資することと考えます。また、本市は人口密集率が被災した仙台市より高いことを考慮すると、耐震化は必然です。

次の3カ年に渡る水道料金軽減の継続に必要な財源は、13・6億円にのぼります。これだけの財源があれば、より一層、防災に対する整備促進に費やすことが可能だったのではないのでしょうか。

被災した仙台市では、現在、復興のために莫大な予算が必要となっています。防災に備え、これらの財源を留保することも検討に値します。今後は、あらゆる公共事業に予算を傾注するのではなく、「**選択と集中**」をもつて必要な公共事業に予算をかけることが望まれます。

また、これまでの1世帯月額50円の水道料金の値下げを知っている市民の方々は極めて少なく、行政はその効果について検証も行ってきませんでした。

先日の笹子トンネルの事故ではありませんが、必要なことは「**危機管理能力**」のあり方です。危機管理能力は、危機が発生してからのマネージメントではなく、危機が生じる前にどれだけの準備が出来ているのか、そこには先見性が求められます。私は、市民のみなさんに実感効果の薄い1世帯月額50円の軽減よりも、危機管理に対応した更なる耐震管路の整備、防災力の向上が必要だと考えます。

いわくま ちひろ プロフィール

昭和50年2月26日生まれ●成人して一週間目にカバンひとつで海外修行にでる。●奨学金を受けながら、英国国立ウェールズ大学卒業。英国国立ロンドン大学大学院研究生・専攻は国際政治学。海外在住8年。●海外から日本を見て「教育」や「社会」に危機感を覚え政治の道を決意する。●帰国後、衆議院議員秘書。●公立中学校英語教育アドバイザー・英語講師・留学コンサルタント。FM ラジオパーソナリティ。

ご意見・ご要望お待ちしております!

e-mail
chihiro1890@yahoo.co.jp

FAX
044-245-4135